

緊急時対応 防災マップ

日本は、地震の発生回数が世界の約1割を占めています。最近の研究では、南関東におけるマグニチュード7程度の大地震が起こる確率は、今後30年以内に約70%とされています。遠くない未来に必ず起こると分かっている地震。だからこそ、落ち着いて身の安全を守ることができるように、緊急時の対応を知っておく必要があります！

【災害発生時の役割】中央本町地域学習センターでは…

万が一地震が発生した場合、第二次避難場所として開放されます。区が開設する指定避難所として、必要な介護サービスなどが確保されます。災害時、生活などの援護が必要な方は、こちらをご利用ください。



お住まいの地域によって、避難地区が指定されています。災害発生時、どこかの避難場所へ行けばよいのか、家族でよく確認しておきましょう。

①一時（いつか）集合場所

地震直後、防災区民組織の誘導により、集団で避難するための集合場所。

②広域避難場所

地震災害による大きな火災から一時的に身を守るための場所。

③第一次避難場所

住居を失った住民が避難生活を送る場所。区立の小中学校、都立高校が指定。

④第二次避難場所（福祉避難所）

第一次避難所での生活が難しい要援護者のための避難生活場所。福祉施設や地域学習センターなどが指定。

- 凡例
- 区役所
 - 小中学校
 - 病院
 - 交番

家族で防災会議

災害発生時、家族みんながそろっているとは限りません。家族の安否を確認し、無事に会えるためには、日ごろからよく話し合っておく必要があります。

1. 避難場所・集合場所を決めておこう

※昼と夜、目的地まで複数のルートで家族と歩いてみましょう。

2. 連絡先・連絡方法を決めておこう

連絡方法〔 〕

※三角連絡法

災害時、被災地から離れた場所の方が、連絡が付きやすくなります。親戚や友人などの連絡先を控えておき、家族同士で連絡が繋がらなかった場合の中継役として把握しておきましょう。



3. 防災カードをつくろう

避難場所や連絡先、身元が分かる情報など、災害時に必要な内容をまとめたカードを作成し、いつも携帯するようにしておきましょう。財布などの中に入れられるサイズがよい。

※携帯電話に登録されたよく使う番号も、バッテリー切れを起こすと思いつけないことがあります。重要な連絡先は記入しましょう。

日常の備え 防災グッズ

災害発生後、救援物資が届けられるまで数日かかることが予想されます。避難場所になっている各小中学校などには、最低限の生活必需品が備蓄されていますが、数に限りがあります。そのため、日常から防災の備えをきちんとしておきましょう。

1. 備えは3日分を目安に

- 飲料水（1日：1人3リットル）
- 非常食（缶詰、レトルト食品、乾パン、ビスケットなど）
- 衣類（下着など）
- 非常用トイレ

2. 避難生活の必需品

- 携帯ラジオ（ソーラー充電機能付きがよい）

- 懐中電灯（合図も送れます）
- はきもの（ガラスの破片対策の運動靴など）
- 呼び笛（居場所を知らせる）
- 常備薬・医薬品・救急セット
- 雨具・防寒具（毛布などもあるとよい）
- タオル・ティッシュペーパー・洗面器具
- ゴミ袋・ポリ袋（段ボールに敷いたら、即席ポリタンク）

防災情報 一覧

- ・災害用伝言ダイヤル 171（イナイ）
- ・足立区防災・防犯 <http://www.city.adachi.tokyo.jp/bosai>
- ・東京都防災ホームページ <http://www.bousai.metro.tokyo.jp>
- ・防災情報のページ（内閣府） <http://www.bousai.go.jp>
- ・防災情報のページ（気象庁） <http://www.jma.go.jp/jma/menu/menuflash.html>